



# 新春トップインタビュー

## 株式会社ニッポン

### 前鶴俊哉社長

製粉をはじめ冷凍食品、中食といった既存事業が好調に推移し、営業利益も回復基調にあるニッポン。北米での製粉事業進出やインドネシアでのプレミックス工場の竣工など海外事業にも力を入れる。人材育成に取り組み、社員のエンゲージメントを高め、健康経営が大切と語る前鶴俊哉代表取締役社長に、ニッポンのこれまでとこれからを聞いた。

(聞き手 石母田健まとも川田岳郎)

2023年を振り返って製粉事業は2022年に比べ、比較的落ち着いた年だった。22年春先にはロシアによるウクライナ侵攻があり、穀物価格が上昇した。コストアップ分は価格改定を行い、下期以降は価格改定が進捗したことで収益が回復してきた。輸入小麦の政府売渡価格は、22年10月期は緊急措置として4月期の価格を据え置き、23年4月は激変緩和措置として上昇幅を抑制。インバウンド需要も戻り、外食向けに業務用小麦粉の出荷も増え、製粉事業は落ち着いた推移した。冷凍食品は順調に推移した。業務用プレミックスについては、出荷が回復してきたが、まだ、コロナ前には及んでいない。しかしながら、グループ全体でも業務用を中心として、中食ビジネスなどが回復基調

# 人を育てることを大切に健康経営にまい進

ah Flour Milling, LLCと出資契約を締結。当社グループが重点領域のひとつとして取り組む海外事業においては、北米でのビジネス拡大とインオーガニック成長戦略の推進を含めた事業展開を具現化し、米国で製粉事業を行うことでグループ全体の製粉事業の総合力を高めていく。米国で展開しているNIPPON California Inc. (プレミックス等の販売)、Pastamontana, L.L.C. (パスタの製造・販売) 2拠点とのシナジーも発揮したい。10

2023年を振り返って製粉事業は2022年に比べ、比較的落ち着いた年だった。22年春先にはロシアによるウクライナ侵攻があり、穀物価格が上昇した。コストアップ分は価格改定を行い、下期以降は価格改定が進捗したことで収益が回復してきた。輸入小麦の政府売渡価格は、22年10月期は緊急措置として4月期の価格を据え置き、23年4月は激変緩和措置として上昇幅を抑制。インバウンド需要も戻り、外食向けに業務用小麦粉の出荷も増え、製粉事業は落ち着いた推移した。冷凍食品は順調に推移した。業務用プレミックスについては、出荷が回復してきたが、まだ、コロナ前には及んでいない。しかしながら、グループ全体でも業務用を中心として、中食ビジネスなどが回復基調

にあり、上期は好調に推移したといえる。2026年度に売上高400億円を目標に取り組んできたが、価格改定を行ったこともあり、今期中に達成できる見込みとなっている。

——海外事業にも取り組んでいる

5月に、米国の製粉会社Ut

月には、かねてより建設を進めていたPTNIPPON PRODUCTS INDONESIA Aのプレミックス工場が竣工。ハラール認証を取得し、世界最大のムスリム人口を有するインドネシアを基盤に、ASEAN地域での業容拡大に取り組んでいる。

——原料価格は落ち着いてきた一方で、円安が進行している

コストが上昇する中で価格改定を行ってきたが、価格改定できた部分はコスト上昇分であり、現在の好業績は、これまで手を打ってきた冷食・中食によるもの。コスト上昇分は価格改定を行い、従業員の賃金も上げていかなければならない。適正な利益を上げ、給与も上げていくことが大切。サプライチェーンを通じて、全世界とつながっている現在、食料品をはじめとする物の値段を考えていかなないと、30年間続いてきたデフレ時

代に逆戻りしてしまうという危機感がある。

——重点的に取り組んだこと

食品事業では、冷凍食品に力を入れた。当社は独自性のある商品が多く、1食完結型のワンプレート商品「よくばりシリーズ」は好調に推移した。ワンプレート型の商品は、急にできたというわけではなく、適した材料とそうでないもの見極めから、熱伝導率の違う食材を同じように温める技術を磨くなど、何度も試行錯誤が繰り返されてきた。冷凍パスタも同じようにいろいろな技術の積み重ねがある。

——2024年の抱負を

23年度は好業績で終えることができそうだが、一過性のものにするのではなく、継続したい。北米での展開をはじめた海外事業を加速させることや冷食・中食における効率化をさらに進めることはもちろんだが、人的投資にさらに力を入れる。社員と一緒に成長することが大切であり、社員それぞれの能力を上げていく取り組みを充実させる。そのためにも、人を育てることを大切にしたい。社員一人ひとりが楽しく仕事に取り組み、一緒に成長できる企業風土を醸成していく。

脱炭素社会の実現に向けては、着実に取り組むことが大切であり、23年はNIPPON (Thailand) Co., LTDに太陽光発電を導入した。セキュリティ強化も含め、DXも推進していく。ChatGPTなどの生成AIはメリットとデメリットを判断しながら、導入の可能性を探っていきたい。そのための研究を行ってみたいところだ。